

行政調査特別委員会 行政視察結果報告書

平成29年11月14日

報告者	第2班		
参加者	班長 青田兆史	副班長 川村寿利	大門陽利
	鷹嘴孝委	齋藤文明	手塚雅己

視察項目

実施年月日	平成29年10月23日(月) ~ 10月26日(木)		
視察目的	1 デマンドタクシー(スマイル号)について	愛媛県伊予市	
	2 福祉総合窓口開設事業について	愛媛県松山市	
	3 さかいで算数・数学オリンピックについて	香川県坂出市	
	4 伝統的ものづくり支援事業について	香川県高松市	
視察概要	視察概要	伊予市	*人口: 37,754人 *面積: 194.44 K ² *特徴: 成務・天智天皇の第に伊豫国政庁が置かれ伊豫皇子が官舎を設けたとされる地域の中心地であった伊豫に由来する歴史ある田園都市。北部は道後平野の南端となる平地、北西部は瀬戸内海沿岸、南部は中山間地から四国山地に続くなど多様な姿を見せる。平地部に人口集中がみられる。
		松山市	*人口: 512,373人 *面積: 429.40 K ² *特徴: 1603年に加藤嘉明が勝山に築城し「松山城」と名付けたことに由来し、1889年の市制施行以来、愛媛県の政治・経済の拠点都市として発展してきた。2005年に北条市・中島町と合併し、四国初の50万人都市となった。「幸せ実感」をキーワードに8つの政策と30の幸約を実践している。
		坂出市	*人口: 52,322人 *面積: 92.49 K ² *特徴: 古くから塩田のまちとして栄え、坂出港の重要港湾指定以降は、港湾・工業都市として発展。岡山まで鉄道で40分、高松空港まで30分と交通の便が良い。瀬戸内の交流拠点としての発展を指向し、産業立地環境の充実と企業立地促進条例を活用した優良企業の誘致を進める。
		高松市	*人口: 418,756人 *面積: 375.44 K ² *特徴: 讃岐平野の中央部に位置する中核市。古くから高松藩の城下町として発展し、風光明媚な自然と町のたたずまいがほどよく調和する全国有数の美観都市。明治以降は国の出先機関や大企業の支店が集積する四国の中心都市として発展。高速道路の開通や香川インテリジェントパーク、サンポート高松などが整備され、高次都市機能や都市資源が充実。

視察結果（個別票）

個別項目	デマンドタクシー（スマイル号）について			
	視察先担当課	伊予市産業建設部経済雇用戦略課	添付資料	無

視察要旨

平成17年に、隣接する人口5,400人・62.1km²の旧双海町、人口4,400人・75.4km²の旧中山町との新設合併によって、人口3万6千人、194.4km²の市域の伊予市となった。今回の視察対象である「スマイル号」は、過疎高齢化が進む旧双海町エリアと旧中山町エリアを運行区域としている。

【導入の経緯】

平成21年2月に対象となる地域の16歳以上の市民にアンケート調査を実施し、サンドの検討委員会を経て平成22年3月に「伊予市地域交通整備方針」を決定。

プロポーザルにより計画策定支援業者に委託のうえ市民とのワークショップ、計画策定委員会での検討、路線バスの見直し協議、「伊予市地域公共交通会議」などの審議を経て平成23年4月、「デマンド交通システム構築業務委託契約」を中山地域及び双海地域内それぞれのタクシー事業者と締結。運行形態についての協議・調整、愛称募集、条例制定を経て平成23年10月に本格運行を開始した。

【主な取り組み】

(1) 運行形態

運 行 日：毎週月～金曜日（年末年始・祝日は運休）

運行時間帯：午前7時～午後5時（正午から1時間は休憩）

運 行 車 両：乗客定員9人のワゴン車で2地域2台ずつ計4台

利用できる方：双海町・中山町地区在住で、原則ひとりで乗り降りが可能な方。

（介助員同行なら可）

乗 降 場 所：運行区域内の共通乗降場所及び登録者が登録した自宅付近などの場所。

利 用 運 賃：小学生以上1回300円。（現金は不可で、利用券でのみ乗車可）

（未就学児は保護者同伴の場合1名のみ無料）

（身障者手帳をお持ちの方には150円券を販売）

利 用 券：市役所、各地区事務所、支所で販売。

(10枚綴り3,000円と6枚綴り1,800円、身障者用の4種類)

予約受付：毎週月～金曜日（年末年始・祝日は除く）

午前8時30分～午後5時まで。1週間前から乗車1時間前まで予約可。

(2) 運行業務など

- ・ 中山地域及び双海地域内のタクシー事業者2社に、2,213万5千円（1台あたり550万円）で業務委託している。
- ・ 予約受付・配車作業は、双海中山商工会に392万8千円で業務委託しており、常時2名のオペレーターで対応している。
- ・ システム運営業務は、開発した業者と年間147万7千円で賃貸借契約を締結している。
- ・ 総額2,800万円の全てに過疎債を充当している。

【事業の効果】

(1) 登録利用状況

- ・ 平成29年10月現在で中山町地域853名、双海地域538名、合計1,391名が利用登録しており、これは地域住民の20%ほどにあたる。
- ・ 平成28年の年間利用者数は、7,664名（中山地域4,821名、双海地域2,843名）で、月平均638.7名、1日平均31.5名である。
- ・ 平成28年の利用券販売総額は、2,305,200円であった。

(2) 市民の声・評価

（良い点）

- ・ 自宅付近まで迎えに来てくれるようになって良かった。
- ・ 病院や商店など行きたいところまで運んでくれ助かっている。
- ・ 通常のタクシーに比べ安い料金で利用できありがたい。

（意見・要望）

- ・ 地域外（旧伊予地域、近隣自治体）への運行区域の拡大。
- ・ 運行時間の延長（土曜日や夜間）
- ・ 荷物の積み下ろしの手伝い。
- ・ コミュニティバスとの連携。

今後の課題・方向性

平成25年をピークに、高齢化がさらに進んだことや地域内人口が減少したことにより、利用者が減少傾向にある。利用促進のための「スマイル号通信」配布、利用登録者・家族を対象としたアンケートや聞き取り調査、割引制度の導入を進め、効率的で利便性の高い運行体系を確立し、将来的に持続可能な交通機関となるよう取り組みを進めていきたいとのこと。

視察所見

平成27年7月からは、伊予市中心地域（本庁地域）でも5路線・2台体制で、コミュニティバス「あいくる号」が、運行されている。中山・双海地域住民間での高評価を受けてのことだと思う。

きめ細かな運用を行なっている伊予市の事例は大変参考になった。同様の課題を抱える日光市ではあるが、市域の広さを考えると同様に取り組み得ないところがある。

視察結果（個別票）

個別項目	福祉総合窓口開設事業について			
	視察先担当課	松山市保健福祉政策課	添付資料	無

視察要旨

【事業実施に至る経緯】

松山市では、平成12年11月に本館1階の市民課に「総合窓口センター」を開設し、ワンストップサービスを進めている。また、平成22年3月から毎週木曜日の受付時間延長と毎月第二土曜日の休日開庁を行っている。

「福祉総合窓口」の開設については、以前から構想はあったものの場所の確保が困難な状況となっていた。

市長が実施しているタウンミーティングにおいて市民からの要望が多く、市長の指示を受け、平成24年度の重点事業として別館1階の公営企業局の一部を移転させ、平成24年7月より開設した。

【開庁日・開庁時間】

月～金曜日の午前8時30分～午後5時15分（祝日・年末年始を除く）

【開設費用等】

- 福祉総合窓口設置にかかる改修費用（授乳室・多目的トイレ・会議室設置、移設費用など） ⇨ 約1,500万円
- 備品購入 ⇨ 約500万円
- 運用経費は、コピー機・用紙代などの消耗品関係のみで、必要な申請書類・端末・システムは、それぞれの担当課で使用しているものを利用しているため約20万円

【組織編成】

開設当初は担当課長を置き、国保・年金課、介護保険課、高齢福祉課、からそれぞれ1名、障がい福祉課、子育て支援課、生活福祉総務課の3課から1名の合計5名体制であったが、現在は専属職員を置かず、2交代制（4人×2回＝8人/1日、午前8時30分～午後1時・午後1時～午後5時15分を勤務時間とする）4名体制で運営し、保健福祉政策課が統括している。

【申請窓口取扱業務】

「総窓口業務個別調書」を作成し、関係各課で調整・選定を行った105業務。

【相談窓口取扱業務】

高齢者相談、保育・幼稚園相談、障がい者相談、手話通訳、生活困窮者相談、生活福祉資金貸付相談。

【フロアマネージャーの職務と窓口対応】

保健福祉政策課員1名、高齢者相談員2名の合計3名が1時間交代でフロアマネージャーを務めている。声かけをし、要件を確認した上で対応不可の場合は担当課へ案内している。4割くらいは担当課への案内となっているが、たらい回しにしない、歩かせない努力をしている。

福祉総合窓口にはバックヤードがないため、保険証の発行などその場で完了すべき業務は窓口職員が受付から発行まで完了させる。郵送扱いなどその後の端末入力が必要なものは、業務終了後に申請書を担当課に渡して処理している。

総合窓口センターでは、受け持ち業務はそのまま、福祉総合窓口で処理できる業務は、チェックシートを市民に手渡した上で福祉総合窓口へ繋いでいる。

処理する業務が1つの場合と、料金に関わる業務は担当課を案内している。多くの課にまたがる場合で、収納業務が発生した場合は、収納担当を福祉総合窓口に呼ぶ場合もある。

【市民の反応】

- ・ 特に体の不自由な方や高齢者から「1箇所ですべての手続きができるので便利になった。」
- ・ 担当課がわからなかったが、窓口で把握して処理してくれるようになった。
- ・ 他のサービスも案内してくれるので助かる、などと好評。

【事業効果】

- ・ 死亡時や転入時に必要となる手続きが、1つの窓口で受付できることにより利便性の向上につながっている。

今後の課題・方向性

毎年、人事異動により総合窓口に従事する職員が交代するため、質の高い職員の育成や窓口運営の部内外の調整（取り扱う業務・人員確保）が課題になっている。4月1日に一斉に職員が交代することがないよう、所属課の理解を得て、2ヶ月間の経過期間内に順次交代することにより、その間、各業務マニュアルを配布して研修を実施し、新規職員の育成に努めている。

今後においても相談窓口や申請窓口の取扱業務について検討を行い、福祉総合窓口の充実を図っていききたいとのこと。

視察所見

年間に福祉総合窓口を訪れる市民は約6,000名であり、7,800件の申請数だという。

51万人の人口を有する松山市にあっても、1日あたり25名弱の来訪市民に対する職員コストの高さが悩みであるとしていた。人口規模の小さな日光市においては、違ったアプローチで市民サービスの向上を図るべきであろうと感じた。

視察結果（個別票）

個別項目	算数数学オリンピックについて			
	視察先担当課	坂出市教育委員会学校教育課	添付資料	無

視察要旨

【経緯と目的】

平成24年は坂出市市政施行70周年にあたり、教育委員会として市の発展を願う行事を行いたいと考えた。そこで、算数・数学に対する興味・関心を喚起し、活用する楽しさを感じさせることで、自ら発展的に学ぼうとする姿勢が育て、ひいては学習指導要領の「生きる力」や、市の教育理念である「志を育む」ことにつながる「さかいで算数・数学オリンピック」を開催することとした。

全国的にも福井県の「理数グランプリ」、富山県の「科学オリンピック」をはじめ多くの取り組みがなされている。坂出市教育委員会では、島根県の「島根数オリンピック」を視察し、その取り組みに多くを学んだ。

【事業内容】

事業は、問題作成 児童生徒が問題を解く「オリンピック」 表彰式 解説の会（坂出市独自）の各段階からなる。

【組織】

実行委員会：大学教授（委員長）、有識者、小中学校長、保護者の7名。

問題作成部会：大学教授、有識者、市内の小中学校の校長、教頭、教諭ら22名。

（それぞれ教育委員会が、選任し委嘱している。）

【目的など】

学校で学習する基礎的内容の習得の上に立ち、発展させた内容の問題に挑戦することを通して、算数・数学を深く考える楽しさ、工夫して解く喜びを味わうことを目的とする。

さかいで算数・数学オリンピック実行委員会が主催し、坂出市・坂出市教育委員会・仲多度郡三町教育委員会・綾歌郡二町教育委員会が共催、坂出市小学校長会・中学校長会が後援している。

【実施要項】

部門：小学生の部・・・5、6年生

中学生の部・・・1、2、3年生

参加：坂出市・仲多度郡三町・綾歌郡二町に在住、または所在の小中校に通う児童
生徒希望者

実施場所：坂出中学校

実施日：7月下旬の日曜日

実施時間：小学生 90分（60分後退室可）

中学生 120分（90分後退室可）

申し込み：学校または事務局

参加料：無料

表彰式：8月下旬の日曜日

メダル・表彰状授与

氏名のみ公表し、学校間の競争を煽らない配慮から学校名は公表しない

（現状では、香川大付属小中の児童生徒に高得点者が多い）

【予算・内容】

50万円で実行委員会に委託。

（内容）報 償 費：大学教授等への監修謝金、記念バッジ、メダル、表彰状など

消耗品代：用紙代、封筒代、資料代など

印刷製本費：ポスター、チラシなど

【問題作成】

（内容）

- ・ 日常生活や社会において知的好奇心をかきたてる問題
- ・ 数学的に面白い問題
- ・ 数学的な考え方をを用いて解くことが必要な問題

（出題範囲）

- ・ 小学生の部・・・5年生の7月まで
- ・ 中学生の部・・・1年生の7月まで

（問題作成要領）

問題形式：短答式

記述式・・・見いだした事柄を説明、方法や手順を説明、理由を説明

問題の量及び難易度：

- ・平均が50点程度
- ・粘り強く思考して解決できる問題

著作権：問題はオリジナルで、他の著作権を侵害しないように留意している

(問題作成委員の願い)

- ・算数・数学の本質は競い合うことではない
- ・考える楽しさを体験することで主体的に学ぶ姿勢を身につけてほしい
- ・逃げない、あきらめない、挑戦する子供に育ててほしい
- ・『数学好き』の山を高く、すそのを広くしたい

事業の成果

【アンケート結果】

(小学生)

- ・時間がかかったけど楽しかったです。次回はもっと勉強してスラスラ解けるようになりたいです、問題はもっと難しくなってくると思うけど楽しみです。(小学5年生 初参加)
- ・初めはわからなくても、じっくり色々な方向から考えると解けました。解けた時はとてもすがすがしい気持ちでした。来年も参加したいです。(小学6年生 2回目)

(中学生)

- ・小学校の頃から全て参加していて、中学生になって少し難しく感じました。問題が解けた時は、パズルの最後の1ピースをはめた時みたいな達成感や喜びがありました。来年も参加したいです。(中学1年生 3回目)
- ・自分の苦手な分野がわかったので次回も解きたいと思いました。問題を見て、いろいろな種類、考え方など問題を作った人がすごく考えて作っていると思うとありがたいです。来年も開催してください。(中学2年生 4回目)
- ・小学校の時は算数があまり得意ではありませんでした。中学に入り数学に出会い、数字を面白いと感じるようになりました。もっと前からこの面白さに気づいていればよかったと思いました。高校生になっても数学を学び続けたいです。(中学3年生 2回目)

【成果】

- ・教員の資質向上

より良い問題を求めて年間10回の作成会議を開き、一回の会議でやっと1～2問

が採用されるという厳しい会議を続けることで、問題作成の視点で日常を見つめ直し、日頃の授業を振り返る機会となった。

- ・ 小中連携

小学校・中学校での児童生徒の学習実態を把握する機会となり、相互の学習内容の系統的理解につながった。

- ・ 他市町の関心・賛同の声

まんのう町、琴平町、多度津町、宇多津町も参加 ⇨ 参加者の増加
(平成24年の160名から平成29年は239名と年々増加)

今後の課題・方向性

問題作成に関して、良問作成のためには問題作成委員会の回数確保が課題である。金曜日15時から、教員の日常業務終了後に作成委員会のために坂出市教育委員会に集合することが負担となり、他の自治体教育委員会からの委員選出ができなくなった経緯がある。問題作成を業者に委託する予算がないので、教員に多大な負担を強いているのが現状である。

また、参加地域が拡大していることから、実施会場も含めた参加者増への対応も課題である。

「毎年、子供が参加することを楽しみにしています。」「これまでにない新しい発想で作られた問題に毎回驚かされ、感心している。」「中学校で終わらずに、高校生の部も作って欲しい、」といった市民(保護者)の反応を聞くにつけ、問題作成委員の中からは「子供達が時間いっぱい取り組む様子に感動。さすが!」「考えることは楽しい!!というメッセージを送り続けましょう。」という声が、新たな活躍の場に対する感謝とともに上がっている。

自治体の枠を超えた広域事業の未来を開くという意味で、継続可能な実施形態を求めていきたい。

視察所見

素晴らしい事業が、必ずしも予算に恵まれる訳ではないことの好例だと感じた。関係者の志の高さに、頭がさがる思い。

視察結果（個別票）

個別項目	伝統的ものづくり支援事業について			
	視察先担当課	高松市産業振興課	添付資料	無

視察要旨

高松市では、生活様式の多様化による消費傾向の変化や後継者不足から厳しさを増している特色ある伝統的ものづくりの継承・発展を図ることで、創造性豊かなまちづくりに結びつけることを目的に、平成26年4月「高松市伝統的ものづくり振興条例」を施行した。

全国生産量の80%を占める盆栽、香川漆器、庵治石製品に加え、香川県指定伝統工芸品20品目、合計23品目について「高松市伝統的ものづくり」品目としている。

「伝統的ものづくりの大切さを認識すること」「担い手の確保や人材育成を図ること」「事業者の自主的な努力を尊重すること」「伝統的ものづくりの魅力を国内外に向けて発信していくこと」の4つの基本理念のもと、「人づくりの推進」「事業環境の整備等」「普及啓発」「ブランド力の向上・販路開拓」「事業者等に対する支援」「表彰」の6つの基本的施策を進めている。

【平成29年度高松市伝統的ものづくり振興計画事業の概要】

施策の公平性・透明性を確保するための協議・評価を行う「伝統的ものづくり振興審議会」を2回開催。構成は、学識経験者・マスコミ・販売業者・公募委員その他の5名。

普及啓発・販路開拓等を目的とした「香川の家具と塗り物新作見本市」「庵治ストーンフェア」「全国漆器展」「香川の漆器まつり」の展覧会に対し補助を行う。

市内の小中学校に職人を派遣しワークショップを開催する。次世代を担う子供達が、伝統的ものづくりについて理解と関心を深めるとともに、高松市に対しての「誇り」や「愛着心」の醸成に寄与することを目的とする。「庵治石コース」2校・75名、「香川漆器コース」2校・75名の合計150名を対象とする。

異業種間の交流と学びの場の提供を目的として、伝統的ものづくり事業者対象セミナーを開催。

高松市の産品PRと産地への誘客のため「世界盆栽大会 in さいたま」出展事業を負担。販路開拓や担い手育成、ブランド力向上に係る事業に対し、費用の一部を補助。

(上限額50万円、補助額は総事業費の1/2以内)

香川漆器魅力発信事業

優れた技法が伝わりながら全国的な認知度が低い「香川漆器」について、ブランドイメージの形成を図り、認知度を向上させるため、ハイブランド女性誌への掲載を実施検討するほか現代アート分野と融合した展示会を開催する。

啓発事業として、4コース各2回、各回親子定員15組の親子で夏休みの宿題を完成できる「親子体験教室」を実施する。

視察所見

産業構造の変化から需給バランスを失ってしまった伝統工芸産業を再興させることは無理がある。それは過去の産業構造全体を蘇らせる試みであり、試してみる価値もないことだ。しかし、卓越した手作業により創り出された伝統工芸品は、私たちの生活に潤いを与え、心を和ます力を有している。過去においては実用品であった品物たちが、現代にあっては、趣味性の高い工芸品として人々の日常をより豊かに創造するアイテムになる可能性を秘めている。

現代の生活様式に結びつき、人々がそれら工芸品の持つ価値を見出した時、伝統工芸品は再び「製品」としての価値を取り戻すことができるのではないだろうか。高松市職員の先進的な取り組みに接して、そう感じた。

平成30年(2018年)2月8日

行政調査特別委員長 福田悦子様

行政調査特別委員会第2班
班長 青田兆史

意見交換会の結果について

行政調査特別委員会第2班意見交換会の結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時 平成29年12月18日(月)午後1時30～
2. 会 場 委員会室(市役所本庁舎4階)
3. 実施内容 1) 算数・数学を表現する場をつくる事業について
視察先：香川県坂出市
視察事項：さかいで算数・数学オリンピック
4. 出席者 班員6名
教育委員会事務局学校教育課(教育指導係)

5 . 結 果

1) 意見概要

《学校教育課》

- ・坂出市の、挑戦する意欲や自分で考える力を育てるという趣旨には共感、賛同できるし、新しい学習指導要領にも合致すると思う。
- ・日光市は、1人では解けないが友達と協力すれば解けるであろう問題を設定し共同で解決するという「JUMPの課題」を行っており、算数・数学オリンピックに似た取り組みだと思う。
- ・日光市では子ども主体の授業づくりに取り組んでおり、指導主事が年2回、学校訪問を行い授業改善を行っている。
- ・中学校では、各教科ごとに学力向上推進委員会という3名の組織があり、毎年授業を公開し、市内の先生に来てもらって授業の質の向上を図っている。また要請訪問という、「授業を見てほしい」という学校の依頼に応じて出向き授業研究会を行っていて、年間300～400の授業を見ている。このような取り組みで授業の質の向上を図っている。
- ・市内全体に名前を知ってもらうような場の発想はなかった。ただ、クラスの中で「誰々ちゃんはすごい」ということはみんなが知っているの。
JUMPの課題とは...主に算数・数学の単元の最後に、教科書の学習範囲を超えた内容の問題を各校の教師が作成し、子供は4人1組で教科書の内容を使って解く。

《委員》

- ・JUMPの課題は授業の一環だと思うが、算数・数学オリンピックは授業から少し離れた、日光市ではやっていないイベント的な取り組みであり、その趣旨は参考になるのではないかと感じる。
- ・各学校の先生が実情に合わせて問題を作るとなると、先生によって教え方も違うので、子供からしても先生によって教わる内容が違ってくる。坂出市のように共通の問題でやることで、分かることもある。
- ・算数・数学オリンピックはクイズ的な要素が強いが、参加率が10%程度と低く回答率も50%ということで、回答率がもう少し上がるような設定にすれば参加率も上がるのでは、と感じる。
- ・算数・数学を学ぶ子に対する興味を提供するような、もう少し遊び的な要素をJUMPの課題にも取り入れてもらえたらいいのではないかと感じる。

2) 感想・所見

- ・「JUMPの課題」という日光市独自の取り組みを知ることができたのは良かった。
- ・「授業の一環」という考えから離れないと、自治体の枠を超えた広域事業の未来を開く、坂出市のような事業に取り組むことは難しいと感じた。